

まちを楽しむための法則

奥本 一まち歩きを楽しむ心構えは？
まず歩いてみて自分が感動を受けたところで立ち止まってみる、これが大切ですね。写真は残るものから、撮ることで今ある風景を後世に伝えるという効果もあります。平成14年(2002年)11月、仁保公民館に作品を出展した時、私の作品の隣に何十年前からの仁保の写真も：感動しました。子どもたちが50年くらい後に私の写真を見て、50年前はこんなものがあったんだと感動してくれるとうれしいですね。これだけは財産として残してあげることができま(笑)。

佐々木卓也さん
西国街道散策会会長



歩くことにのめり込むことで、何かをつかめるはず

呉工業高等専門学校、大島商船高等専門学校講師。平成12年3月に西国街道散策会を結成し、西国街道(旧山陽道)散策の案内役を務める。そのほか、榎田学会理事や広島地名研究会事務局代表など、幅広い活動を展開中。

各地で配布と同時になくなってしまう人気の「西国街道散策マップ」
(佐々木さん提供)



西国街道散策会ホームページ
<http://www.c-haus.or.jp/kaidou/>

佐々木

奥本

秦野

散策会をする時には、こういうポイントで説明してあげようと思ったりしています。ただ、案内役というのには、説明する内容などを常に考えながら歩いているので、結構重なりがあります。何の縛りもない人の方がいるような発見があつて楽しめるだろうと、ついうらやましく思うことも(笑)。
最初の頃は、まだ趣味の範囲だったので、何気なくここを撮ってみようかという感じでした。作品集としてまとめてみようと思いついてからは、どこで撮った写真をその後で確認に行くなど努力しました。今では、その日歩いた範囲の地図をコピーして、どう歩いてどこから写真を撮ったか、矢印を付けてながら記録しています。
私の場合、まず気の合う仲間と歩いてみて、興味のあるものを見つ

奥本

河原

秦野

河原

佐々木

けることが第一段階。メンバーに川が好きながいて、川辺を歩きたいと提案されたのがきっかけで、太田川は何度も歩きました。作品集には歩いて撮った写真だけでなく、名所・旧跡も紹介しています。碑文が必要なものは全部メモ書きしたりして…。歴史も図書館などで調べて、載せています。皆さん、資料集めや記録をきっちりされていますね。やったことを残しておく、他の人も見ることができると、自分たちも何をやってたのか、後で振り返ることができると、すこいなと感心しています。実は、最初は私たちもバラバラでした。それこそ月1回の例会だけで、後はガイドの依頼があつたら、一緒に行く程度でした。これでは勉強しても何も残らないから、活動したことを集めてみようと思いついて、パソコンでまとめることにしたんです。
私たちはまだ、その時々を楽しんでいるけど、記録としては何も残っていない。もったいないですよ。
奥本 一歩いてみての感想は？
佐々木 広島は比較的護岸整備ができていますので、川辺を散策している人を見かけますよね。のどかではないなと思います。
河原 景観が整備され過ぎてしまった、というくらいもありますが、元安橋辺りにバラックがいっぱいあつ

歩くことで広島を知ること

奥本敏雄さん
写真愛好家



目の前にニンジンがぶら下げられれば歩きますよ(笑)

佐々木

奥本

た昔の方が、何か面白があつたような気がします。
奥本 今の風景も変わっていくんですけど、変わってもいいので、何か分かるものを残しておいてもらいたい。例えば護国神社の鳥居は、市民球場の入り口の所に立っていたんです。被爆した際、上からの爆風に對して、垂直に立っていたから倒れなかった。市民球場の入り口の所に、そういうことがあつたという歴史を記しておいてほしいですよ。

広島を愛する写真愛好家。趣味で始めた橋や川の撮影はその後、広島を流れる6本の川、それに架かる橋の踏破に至る。その足取りは、「ひろしま川漫步」と題した作品集として現在全8巻にまとめられている。平成15年には、源流編に着手する計画。



手書きの見出しや解説、俳句や面白話も満載の「ひろしま川漫步」
(奥本さん提供)



奥本

川辺にはいろいろなモノコメントも残っています。また、千田町や日赤病院辺りにも、原爆当時に被爆したガラスの窓枠などがモノコメントとして残っていますが、見るとやはりジーンときますよね。そういえば、この間リパーウオークで元安川を上っていると、たまに野生の鶴がいたので、私が一番に発見したんです。最初はまさかと思いましたね。それから、基町の辺りですから、でも間違いない鶴のつがいだったんですよ。

秦野

幅広い世代で歩くのも楽しそうですね。いろいろな年代の人と歩くのはいい。そこに子どもが混じっていい。ばなおさら。年配の方と歩いていると、ここには昔こんなものがあった、こんなことがあったなどと

子どもたちにまちの面白さを

秦野英子さん

ガイドボランティアひととき代表



発見というのがまち歩きのポイントでしょうね

ボランティアで観光ガイドを行うとともに、本職の情報プランナーとしての技術を生かしてガイドマップを作成。現在、ホームページの中で、いかにガイドするか、また内容を充実させるかに挑戦中。

奥本

教えてください。広島ってこういうまちだったんだと、世代間で共有することができません。大人と子どもの視点は全く違いますよね。子どもは子どもなりの意見や感想があって、大人にとっては新鮮です。

河原

郵便局の建物の模様がゾウの鼻に見えるという子がいて、見方が違



ゾウさんのように見える郵便局(西国街道ふれあいマップ「歩いてみよう西(さい)発見」より)

広島歩き方ホームページ

<http://www1.newweb.ne.jp/wa/hitotoki/>



広島人間がこだわって作った「産直版 広島歩き方」(秦野さん提供)

奥本

河原

うんだなと思いましたが、案内、子どもたちに写真を撮らせて見たら面白いかも知れませんがね。私は今、子どもの遊び場マップを作った見たいなと思っています。子どもたちが何でも早いスピードに慣れてしまっ、ゆっくりとしたことに興味を持たないんです。歩こうと誘っても「何?」、マップを作ろうと提案しても「作ってどうするん?」という具合で。どうしたら子供に楽しんでもらえるでしょうか? みなさんどうでしょうか? 佐々木 子どもが歩いたり遊んだりできる

河原

場所が、大人によって矮小化されていることに原因があるんじゃないでしょうか。私が子どものころは、舗装されていない道がずっとつながっていて、夜遅くまで遊んだものです。時間的な余裕と子どもが解放される空間があった。だからどこに行っても、興味があるから歩く。今はマンションが多く、家から出たらまず階段やエレベーターがある。動く場所というのが、全部人間が作った所なんです。今の子どもたちにとって面白いと思うことがずれている。例えば、夕陽が沈む風景に出くわして、きれいだなという共感が味わえないんです。電車の車窓から流れる風景や昔の町並みに想像を膨らま

河原和代さん

古田学区子ども会会長



やったことを形にしておく、後からみんなで楽しめるんですね

平成13年より古田学区子ども会の会長として、古田学区を子どもの暮らしやすいまちにしようと、さまざまなイベントを企画。子どもたちと一緒に110番の家巡りなどを実施。今後、まち歩きを通して子どもたちの遊び場マップを作成予定。



「子どもは遊びの中で、まちの面白さを学ぶ」と佐々木さん

佐々木

せて、面白いと思える子どもに育つてほしいですね。

秦野

私は今度、高校生の修学旅行の案内をするんです。そこで初めに、「宿題として、何か印象に残ったものを見つけてください」とお願いするつもりです。見つけてみようという宝探しのな動機付けをし

「宿題として、何か印象に残ったものを見つけてください」とお願いするつもりです。見つけてみようという宝探しのな動機付けをし

西国街道散策会の認定書と木製の手づくり通行手形(佐々木さん提供)



佐々木

てあげるだけで、何もなくても視点が変わってくるはずですから。普段見慣れたものじゃなくて、探検とか冒険とか、そういうアクティブな仕掛けをつくってやれば子どもは反応するんじゃないでしょうか。

河原

今の子どもたちの親の世代が、面白いことをやってきていないのは、まちを楽しんでいる人と接すれば、自分たちが何をしたいか自ずと発見できるのではないのでしょうか。

知りたいという気持ちが大切

佐々木

歩いてみて、マップを手掛けることで、探訪の心が生まれれば、しめたものですね。

河原

知るといことが楽しみにもなるし、まちへの愛着にもつながりま

佐々木

す。今、まちを荒らして通る人もいますけど、愛着がないんですよ。自分たちの住むまちの歴史とか地理にしても、学校ではほとんど習わないし親からも聞かない。

講座で詳しい資料を作って渡しても、読んで分かってくれる人は少ない。だから、最近は資料を配らず、その人たちに感じてもらうようにしています。佐伯区の観音台公民館で防災マップを作った時は、初めに観音台はすごく危ない所だと参加者を驚かせて、「これを打開するのはあなたたちに懸かっています」と仕掛けました。すると町内会の方がまとまって、危機意識の中で歩いてデータを集め、半年で出来上がりました。何か目的を持って自分の足で調べてみるのが、きっかけになるのではないのでしょうか。

奥本

歩くことは、健康にもいい。私は普段ほとんど歩くことがなかったのですが、何か目的があれば歩くだろうと思って、活動を始めた部分もあります。撮るためには、自然と歩くことになりましたから。

佐々木

でもやっぱり大人ですよ。歩く、歩く、歩く。飲料が欲しくなる(笑)。そうすると銭湯にも入る。だから、市内の銭湯の位置は大体把握しています。

河原

銭湯マップも作られたらどうですか(笑)。

「まち歩きの手引き」はまず歩いてみる。そして、興味のあるものを見つけ、

とことんまで突き詰めていく。そして、記録に残して、自分自身はもちろん、みんなに楽しんでもらうということですね。

サロンを聞いて...



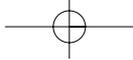
皆さんさすがに達人ですね

坂田俊輔さん

今日はたまたま参加させてもらいました。みなさんの話を聞いて、私も楽しんで生きようと元気をいただいた気がします。機会があれば、私も歩いてみたいですね。

今回のテーマは「生涯学習の楽しみ方、極め方(仮題)」で、2月中旬開催予定です。オープンサロンなので、どなたの参加も大歓迎。参加希望の方は、後日らっく編集部からご案内を送らせていただきます。詳しくは、はさみ込みの別紙アンケートをご覧ください。





学んだことを外に開くと、いきいきしてきた。イキイキするとみがきもかかる。出会は楽しい！

まなんで、ひらいて…



専門家の知識とそれを求める人の声が、まちづくりにつながっていく

まちづくりボランティア 人材バンク交流会

まちづくりボランティア人材バンク交流会は、「どんな人たちが登録しているのか知りたい」「情報交換がしたい」という登録者の声があつたことになり、平成14年(2002年)11月29日に初めて行われました。当日参加したのは55名の登録者の皆さん。7つのグループに分かれてワークショップ形式で行い、交流を深めました。全国的に見ても特色ある制度なのに、「利用が少ないのでは…」という意見が出され、まちづくりボランティア人材バンクをより

利用してもらおうためのアイデアを、参加者一丸となって考えました。その結果、ワーキンググループが生まれ、「活動を広げるニューズレターをつくる」「プラザのロビーで発表会をしよう」など、登録者同士が協力し合つて活動を広げる新たな試みが現在進行中です。



ワークショップで、横造紙に意見をまとめました



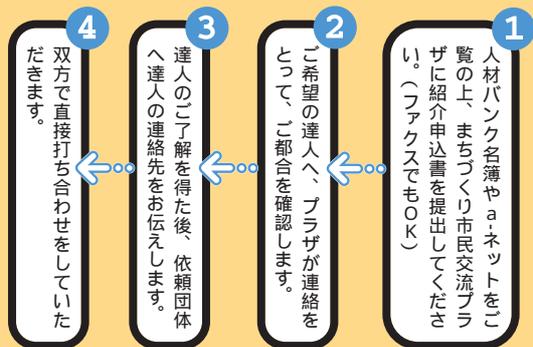
昨年11月29日に開かれた人材バンク交流会の様子

まちづくりボランティア人材バンクって何？

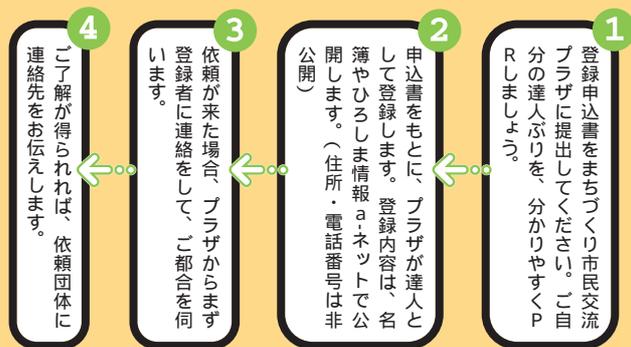
まちづくりボランティア人材バンクは、「仕事や学習、趣味などで得たノウハウを生かして、ボランティアで依頼団体に助言や指導、さらには技術の披露などを行う人」を登録しているリストです。

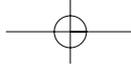
平成9年(1997年)に発足し、現在登録している人は約160人。「学習・子育て」「社会・歴史」「自然・環境」「趣味全般」など、さまざまな分野のエキスパートたちです。「専門家の知恵を貸してほしい」「アドバイスを受けたい」などの要望に応じて、「その道のプロ」が原則として無料で出掛けて行きます。

● 達人を紹介してもらうには…



● 達人として登録するには…





こんな分野の達人たちが登録しています

(平成15年1月現在、188件)

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習・子育て ・子どもの本と読書 ・原爆被爆の証言 ほか ・社会・歴史 ・広島を紹介 ・碑めぐり ほか ・自然・環境 ・家庭からとりくむ環境問題 ・川をテーマにしたまちづくり ほか ・技術・IT ・パソコン指導 ・ホームページ作成 ほか | <ul style="list-style-type: none"> 健康・医学 ・ウォーキング講座 ・ヨガ ほか ・家庭生活 ・消費者問題 ・センスアップ講座 ほか ・趣味全般 ・手品 ・フラワーデザイン ・写真 ほか ・市民生活・社会福祉 ・手話 | <ul style="list-style-type: none"> ・年金問題、税金 ほか ・国際理解・語学 ・英会話 ・通訳 ほか ・芸術・文化 ・楽器演奏 ・似顔絵 ・ダンス ほか ・スポーツ・レクリエーション ・野外活動 ・スポーツ始動 ほか |
|--|---|--|



鶴田久美子さん

ねんりんピックの開幕イベントや公民館などで、押し花作りを指導しています。

どんな人が登録しているのか気になっていたのですが、交流会があると聞いてさっそく参加しました。ゲーム感覚でいろいろな人と情報交換ができました。登録者同士の親近感もアップしたのではないのでしょうか。今回出された意見を生かして、PRの仕方をゆっくり発展させていきたいです。

交流会参加者の声

参加者の皆さんに交流会での感想などを伺ってみました。



熊木廣海さん

保育園などで、独楽回しや皿回しの指導を行っています。

これからの活動の方向を決める、よい交流会になったと思います。まちづくりボランティア人材バンクというのは、全国でも珍しいもの。登録者自身がそれを自覚し、自分の活動をもっとPRしていきたいですね。さまざまな分野の達人のノウハウをどう紹介し、どう活用するか、今後の課題になると思っています。

まちづくりボランティア人材バンクに登録しているのは、専門的な知識を持った人ばかり。知恵を借りながらいいプログラムを作れば、きっと市民に元気になってもらえるはず。活躍の場を求めている達人とそのノウハウを求めている市民の交流、これが元気なまちをつくる活力になるのです。



川井孝二さん

ビオトープ（生物の住みやすい環境を作る）活動をしています。小学生に環境について教えたり、休耕田を使って生物の住む空間を作ったりしています。

生物や造園のノウハウを持った人とネットワークができれば、と思って参加しました。活動を積極的にPRしないと、社会からは注目されません。まずは、知名度アップが課題ですね。これからは若い力をどうやって引っ張るかがポイントになると思います。学校と連携をとって、ボランティアのあっせんなども行いたいですね。

INFORMATION

まちづくりボランティア人材バンクの登録・紹介に関するお問い合わせ先

まちづくり市民交流プラザ

広島市中区袋町6-36

TEL 082-545-3911

FAX 082-545-3838

ひろしま情報a-ネット（講師・指導者のボタンをクリック）

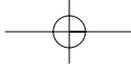
<http://www.a-net.shimin.city.hiroshima.jp/>

人材バンク発表会を開催します

日時 2月15日（土）午後1時～2時

場所 まちづくり市民交流プラザ1Fロビー

（今後、月1回程度開催予定。）



まなんで、ひらいて…

達人 図鑑



外国人無料相談会の様子。相談者に、行政書士（奥列の左側2人）と通訳がつかます。

国際交流を草の根で支える、外国人 のための無料相談会 広島県行政書士会 国際業務協議会

国際化が進む中、日本で暮らす外国人の数は増え続け、広島県内にも多くの外国の方々が住んでいます。彼らが日本で生活するためにはビザが必要ですが、その手続きはとても複雑。この手続きにミスがあった場合、たとえ生活基盤のすべてが日本にあったとしても、自国に送還されてしまうこともあります。「日本に暮らす外国人を助けたい」という思いから、広島県行政書士会国際業務協議会では、ビザについての無料相談を行っています。事務局長の三宅健さんにお話を聞きました。



広島県行政書士会国際業務協議会の事務局長を務める三宅健さん

この活動を始められたきっかけは？

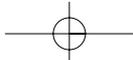
現在、広島県内には約3万人の外国人が住んでいます。日本語が話せない人も少なくありません。

「私たち行政書士が持つ専門知識を生かして、困っている人にはできるだけのことをしてしよう」という思いから、国際業務協議会では、無料相談会を県下の各地で不定期に開催してきました。相談員を務めるスタッフが充実してきた平成11年（1999年）6月から、西区民文化センターで毎月1回定期的に開催するようになりました。平成13年（2001

年）4月より広島市留学生会館の開館とともにここに会場を移し、これまで継続して開催しています。現在では40名の行政書士が、外国人の抱えるさまざまな問題の相談を受けています。

具体的な活動内容を教えてください

毎月第3土曜日の午後1時～4時の間、留学生会館で「外国人無料相談会」を行っています。「永住権を取得したい」「大学を卒業して就職するが、ビザの変更方法を教えてほしい」など、さまざまな相談が寄せられます。国際結婚に関する質問も



広島県行政書士会と共に外国人無料相談会を行っている、多文化共生センター事務局長の梅原さんにお話を聞きました。

Q 相談会では、どのような役割ですか？

A 基本は、英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語の4カ国語で通訳を行います。相談者の質問が「生活」「教育」「育児」など、行政書士の方の専門と異なる分野に及んだ場合は、相談を引き継ぎます。その場で分からないことがあったら、調べて折り返し連絡することもあります。



通訳に関する打ち合わせを行う、多文化共生センターひろしまの梅原陽子さん

困っている外国人を、専門的な知識で手助けする行政書士。そして、それを言葉の面で応援する多文化共生センター。それぞれの立場を生かし協働することが、国際平和文化都市ひろしまのまちづくりにつながっています。

私も資格とりたーい

Q 身近な法律家、行政書士ってどんな仕事？

A 行政書士は、官公署に提出する書類などを作成したり、その書類提出手続を代行したり、そのような書類についての相談を受けたりします。さまざまな免許書類作成や、ちょっとした法律関係の相談なども行う、町の法律相談所なのです。

行政書士として活動するためには、行政書士試験に合格しなければなりません。弁護士、弁理士、公認会計士、税理士のいずれかの資格を持っている場合、公務員として行政事務を通算して20年以上担当している場合は、試験を受けなくても行政書士資格を得ることができます。

行政書士試験の詳しい内容については、下記ホームページをご覧ください。

財団法人行政書士試験研究センター

<http://gyosei-shiken.or.jp/>

どのような体制で活動されていますか？

日本語がほとんど分からない人が相談に来ることもありますし、細かい専門用語や日本独特の制度についての理解が必要になるため、相談中には通訳が欠かせません。しかし私たち行政書士は、語学についての知識がほとんどありません。そのため、外国人支援NPOの多文化共生センターひろしまのボランティアスタッフと一緒に、活動を行っています。

少なくありません。ビザに関する質問の中には、必ずその人の生活環境が関わってきます。ビザのことだけでなく、生活全般についての相談に応じることもあります。また相談会だけでなく、直接フアックスやメールで質問が来ることもあり、それに対しても応えられる範囲で相談に乗っています。

現在、NPOの設立を計画中です。ビザや生活上の問題が相談できる場所があれば、安心して日本で生活することができそうです。それが真の国際交流につながるかと考えています。しかし、行政は各個人の生活まで補助できません。広島県行政書士会では、

今後の活動の目標などを聞かせてください



昨年10月、国際交流フェスティバル「べあせろべ」会場でも相談会を開催。民族衣装を着て相談に臨む三宅さん(右端)

宣伝費、会場費などすべて自腹、相談も無料で行っています。本来なら行政が補助すべき部分を、私たちが行っている面もあると思います。国

際交流を草の根で支えているのは私ただと自負しています。今後は行政にも働き掛け、より多くの人を手助けしていきたいと考えています。

INFORMATION

広島県行政書士会・国際業務協議会 事務局
広島市中区鞆町2-3 飯田コーポラス107号
TEL 082-223-5581 (三宅 健)
FAX 082-223-5705

多文化共生センターひろしま
広島市中区大手町1-5-31-303
TEL・FAX 082-545-4700
tabunka-h@mx41.tiki.ne.jp

